

抗がん剤サリドマイドなど

「治験で併用」了承

未承認薬会議

厚生労働省の「未承認薬使用問題検討会議」

(座長＝黒川清・日本学術会議会長)の初会合が

24日開かれ、同省が求め

た多発性骨髄腫の「サリ

ドマイド」、結腸・直腸

がんの「オキサリプラチ

ン」、悪性胸膜中皮腫の

「ペメトレクスト」の3

種類の未承認の抗がん

剤について、「治験制

度」で保険診療と保険外

診療との併用(混合診

療)を認めることを了承

した。

同省は治験制度の運用

を改善することで未承認

薬の併用拡大を進めてい

く方針を決めており、今

後同会議が中心となって

検討する。

同会議はがんなどの薬

物療法に関する専門家ら

13人で構成。欧米で新た

に承認された薬や、学会

・患者から承認の要望が

多い薬を対象に、3カ月

以内に治験を行うかどう

かを決める。

必要と判断された場合

は、確実に治験につなげ

るため、製薬会社か医師

グループに振り分ける。

治験終了から保険適用ま

で併用が認められない

「空白期間」について

は、「安全性確認試験」

と位置づけ、治験中と同

様の負担で薬を使えるよ

うにし、切れ目のない併

用を可能にする。

肺がん用抗がん剤イレ

ッサで副作用とみられ

る死者が600人近く出

たことが報告されたこ

ともあり、患者への使用

機会の提供と安全性の確

保をどう両立させてい

くかが課題になりそう

だ。

この遺産を未来

古代ギリシャで歴史をつかさ

どる女神クリオは、最も内気な

女神と言われている。しかし現

代では、歴史はそのような静か

で控えめな存在ではない。

過去の出来事をめぐって、ナ

シヨナリズムが燃え上がり、激しく言い

争う。2年後の解散を発表したアジア女

性基金は、まさにそのような内外の嵐に

巻きこまれた存在だった。

は医療・福祉事業をおこな

き、普と尊敬を深く傷つけたと

ら一人ひとりに「心からおわ

けい」を表す手紙も渡した

慰安婦問題は80、90年代に

やく元慰安婦らが名乗りをま

できて、歴史の闇から浮上

りを結んだときはもちろん、

と国交を正常化したときに

なかった。だから、新たに『

女性基金